

平成26年度第5回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「住みたい、訪れたいと思える島づくり」
- 2 日 時：平成26年10月24日（金）15：05～16：25
- 3 場 所：真鍋島ふるさとふれあいセンター 創作活動室
- 4 参加者：笠岡諸島で各島の活性化に取り組まれている方々 8名
- 5 知事挨拶

笠岡諸島には、かねてからぜひ訪問したいと思っており、今日は生き生きトークに合わせ、朝から1日かけて各島を巡ってきた。

生き生きトークは、それぞれの地域、分野で頑張っている方、若しくは苦勞されている方に色々話を伺い、県政に活かしていこうと、開催しているもので、今回は、「住みたい、訪れたいと思える島づくり」というテーマで、皆さんからの率直な意見を伺いたい。

6 発言内容等

- ・ 島に生まれ育ち、長い間、島の中心的な世代として活動してきた。高齢化の著しい島では、ずっと“若い者”と言われ、いろいろな役割を担ってきたが、逆に、いつまでも頑張れることにやり甲斐も感じている。
- ・ 最盛期に比べると島の人口はかなり減少しており、コミュニティの活動として、今まで地域でできていたことが少しずつ負担になってきている。我々だけではできないこともあるが、行政等と役割分担し、地域でできることを頑張っていければと思う。
- ・ それぞれの島が独立した形で維持していくのは難しく、笠岡諸島全体を一つとして考えていかなければとの思いから、島民同士の交流を目的とした「島の大運動会」を始めた。今後は、観光面で島を活性化していくため、例えば、プレジャーボートの係留施設を整備するなど、県外からの観光客を呼び込むようなことも必要ではないかと考えている。
- ・ 漁業を営んでいるが、辞めていく人が多く、後継者不足で悩んでいる。また、燃油代が高く、困っている。
- ・ 島では医療の問題が大きく、特に夜間には医者がおらず、不安である。また、本土から島に帰ってきたいと思っている人にとっても、医療面での不安がネックとなっている。
- ・ 島に生まれて、島で育って生活していると特に困ることはない。島は良いところだと思う。病院も無いよりはある方が良いが、そういった生活環境の中で、どう生きていくかということが大切だと思う。
- ・ 船賃が高いのが困る。せめて子どもたちや子育てしている方に、船賃を半額免除するとかの支援をお願いしたい。
- ・ 島へ移住して来たが、住みやすいところだと思う。島の人からは、なぜこんな不便なところに来たのかと言われるが、島民全員が知り合いで、安心して暮らせる。島の皆さんから大変よくしてもらっている。
- ・ 7年前に島に移住し、今は受け入れ側として新たな移住者を募っている。インターネットを通じた移住に関する情報発信や、下見に来られる方の受け入れを行っているが、なかなか成果にはつながりにくい。最も障壁となっているのは、仕事の問題である。住民の力では如何ともしがたいことを痛感している。行政にも協力をいただきたいと考えている。
- ・ 子育て環境の良いところを探して、県外から移住してきた。島では近所づきあいがあり、非常に安心である。都会では人が多くても他人と交わることがほとんどないが、島では、色々な人と分け隔てなく交流でき、子どもも多様な経験ができています。ただ、学校の統廃合が加速しており、子育て環境に惹かれて移住したのに残念だ。

7 知事のまとめ

- ・ 各島での暮らしや、皆さんの地域づくり活動の状況など、色々なお話を伺い、前向きな意見もたくさんお聞きできた。皆さんのように頑張っている人がいて、島同士のつながりを持ちながら、助け合って生き生きと暮らしておられることが分かった。
- ・ 島に魅力を感じて移住し、子どもたちと幸せに暮らしておられる例もあり、そういった生活を希望する人に、島に来て住んでもらいたい。移住者の方には、次の新たな人を引っ張ってきていただきたい。
- ・ 一方で、島での生活には、医療面の不安など、様々な課題があることも改めて認識できた。
- ・ 地域自らの取り組みでここまで頑張ったので、この部分は行政にお願いしたい、という具合に、県や市の支援を考えられたらと思う。
- ・ 笠岡諸島の状況を直接感じることができ、臨場感のある有意義な訪問だった。